イスラムとテロ
Islam & Terrorism

Anees Ahmad Nadeem

日本アハマディア・ムスリム協会

イスラムとテロ

Islam & Terrorism

日本アハマディア・ムスリム協会
日本本部長　主任宣教師
アニース・アハマド・ナディーム

イスラム教における平和と国際関係

平和、希望、調和、善意そして兄弟愛の宗教であるイスラム教が、近年様々なテロ行為や蛮行の加害者によって、そのイメージを酷く傷つけられてきたことは遺憾である。

この問題を解決するために下記の３つの事項に注目したいと思う。

1. イスラム教における外交特権と戦争の倫理
2. イスラム教におけるジハード
3. イスラム教における平和と国際関係

外交特権と戦争の倫理

イスラム教の聖典－コーランによると、神は肌の色、人種、国籍などに関係なく、全ての個人に栄誉を授けた。自由は神の素晴らしい恩恵の一つであり、それを欠くときわめて悲惨である。イスラム教の神の摂理の下では、誰も正当な理由無くして捕虜になることはない。戦争捕虜は唯一、通常の宣戦布告がなされた戦争や戦闘の場合のみにとらえられ、他の理由や口実の下にはとらえられない。聖コーランは以下の様に述べている。

> 「正規の戦いで打ち負かした敵に非ざれば、捕虜とするは預言者には相応（ふさわ）しからず。」(8:68)

この節は、過去の奴隷制度の慣習を根絶させるだけでなく、今日、実際の戦闘に関与していない無実の人々を人質にしたりハイジャック行為をすることを正当化する一部のイスラム教徒の理論を覆している。

別れの説教でイスラム教の聖なる預言者は、捕虜に与えるべき優れた扱いの指示を与えた。聖なる預言者は言った。

> 「おお、人々よ、あなたがたはまだ戦争の捕虜を扱っている。故に、私はあなたがたに助言する。あなた方が着る服、食べる食物と同様な物を彼らにも与えるように .....。彼らに痛みや苦悩を与えることは決し

て許されない。」

戦争と捕虜の扱いの倫理に関する一層具体的な戒めが、コーランの第四十七章、第五節に含まれている。この多くの意味を含む詩は次のように言い換えることができる。

「通常の戦闘に従事したら、勇敢かつ執拗に戦うべきである。戦争は平和と良心の自由が確立されるまで続くこともあり得る。捕虜は慎重に取るべきである。自由な人たちは、義にかなった合理的な理由無しに自由を奪われることはない。戦争が終わったら、捕虜たちは恩恵の行為として、または身代金の支払いにより、または相互交換交渉によって解放されるべきである。」

イスラム教の歴史では、これら全ての方法が捕虜の解放に用いられてきた。解放を得る一つの新しい方法は、教育を受けた捕虜が身代金の代わりに、文盲の人たちに読み書きを教えることだった。

この詩はさらに、イスラム教の名を騙りイスラム教の旗の下に今日のテロを正当化しようとする者たちの根拠を根底から危うくする。

外交使節は、イスラム教の体制では特権階級に属する人々である。彼らは個人的特権を十分に享受している。彼らはその動機にいくら価値が有っても、政治的な身代金の対象にはならず、彼らを誘拐することは凶悪犯罪である。彼らは殺されたり、危害や虐待を受けてはならない。聖なる預言者の生涯には、これらの原則の適用を示す多くの実例がある。

従って、外交特権に関するイスラム教の聖典とイスラム教の聖なる預言者の教えには曖昧さがない。一言で言えば、どのような形であれ、外交使節や民間人を人質にしたり虐待することは、イスラム教の教えや教義とは全く無縁である。言い換えれば、イスラム教の哲学は完全にテロを拒否している。

イスラム教におけるジハードの概念

ごく一部の構成分子の行動を通じて、西側世界はジハード（聖戦）について間違ったイメージを持っている。ジハードという言葉は、剣を振り回し異教徒を攻撃する、残忍なあごひげを生やし炎のような目をした宗教の狂信者たちが行進する光景を想起させる。

イスラム教用語のジハードは、高貴な方法で努力し、努め、懸命に試みることを意味する。何世紀にも渡って、このジハードの意味は消失したか、少なくとも希薄になっている。イスラム世界における重大な転機に、ジハードの本当の初期の意味を復活させ取り戻す必要がある。

ジハードは大きく２つのカテゴリーに分けることができる。

第一は偉大なるジハードである。これは罪深い性向を抑制する自分自身の人格に対するジハード、すなわち自己の浄化である。これは最も困難なジハードであり、故に報酬と祝福の観点から見れば最高のカテゴリーのジハードである。

第二は、小ジハードである。これは剣のジハードである。これは共同参加のジハードであり、ある特定の条件を前提とする。コーランが語っているのは、イスラム教徒を先制攻撃した者に対する戦闘のみであり、これは聖コーランの他の詩にも規定されている。イスラム教の聖典のいわゆる剣の詩は、全ての不信心者たちに無差別の大虐殺を諄々と説き聞かせるかのように、何度も文脈から取り出される。あなたが見つけるものは何でも殺せ、のようなコーランの言葉は、敵が先にイスラム教徒を攻撃してきた場合にのみ適用され、その誓いや確約を破る不信心者たちや敵に対して用いられる。それらは、挑発に寄らない戦争や戦いには用いられない。それ以外の方法でこれらの詩を解釈すれば、イスラム教の崇高な理想を戯画化することになるだろう。聖なる預言者の生涯において、剣あるいはイスラム教の他に採り得る道を誰かに提供した例は一つも無い。

欧米のメディア及び一部の学者は時として、ジハードのこれらの２つの側面の相違を無視している。聖なるコーランは、信仰の問題に関してはジハード、聖戦を行わないことを忘れてはならない。聖なる預言者の言葉や伝統はそれを、常に不正確に戦闘的表現に陥りがちな激しい闘争の形で表現する。現代のテロは、イスラム教におけるジハードの真の精神の領域とは相いれない。

イスラム教を西側世界が、神の権威を装って不当な人的、物的な苦しみや破壊を引き起こす権利を自らに与える未熟で原始的な宗教とみなしても、それは我々が聖なるコーランと聖なる預言者ムハンマドの教えに見出すイスラム教ではない（平安とアッラーのご加護を！）。

イスラム教における平和と国際関係

神の属性の中で、聖なるコーランは、神は平和の根源であり安全を与える者である（59:23）と言及している。従って、平和の確立と安全の維持は、全てのイスラム教徒にも非イスラム教徒にも等しく不変の目的でなければならない。平和を乱す全ての営みと活動はイスラム教では厳しく非難されている。聖なるコーランには特定の禁止命令が見出せる。

「そして、地上が整えられた後、無秩序を起こしてはならない....」
(7:57;11:86; 29:37)

危害や邪悪は他のいくつかの詩でも非難されており、イスラム教徒はひとえに平和のために力を尽くすように命じられている。

イスラム教は、平和と秩序を乱したり破壊しがちな要因に注意を喚起し、それらを非難する。一国内のある集団による別の集団の支配、または国家間のある民族による別の民族の支配は、平和を妨げる重要な原因として強く非難される。別の民族は国による一民族または一国の経済的搾取は、必然的に支配につながり、平和に対する潜在的脅威に発展する。聖コーランはそのような搾取を禁止している。搾取に基づく経済は結果的に有益では有り得ず、長く持ち

こたえることもできない。

イスラム教は、平和、良心の自由、そして人間の福祉の増進の追求に緊密に結びついた、強固かつ安定した国家とそのような国家間のつながりを具体化する。国家間の条約や条項は簡単な言語で行われ、何らかの優位性を確保したい誘惑によって回避または拒否されることなく作成される必要がある。困難や紛争に、平和的な解決や調整をもたらすのはイスラム教徒の義務である。

聖コーランは、神が全ての人々に啓示を時々、送っていると教えている。旧約聖書の預言者たちやイエスは、全てのイスラム教徒から大いに尊敬され崇拝されている。確かに、コーランはこれら全ての預言者たちを信仰するよう求めている。イスラム教はこのように、全ての預言者への信仰を求める点、唯一かつ独特のものであり、故にイスラム教は、様々な宗教の信者の間に和解をもたらして彼らの間に尊敬と名誉の礎を確立しようと試みる。コーランは次のように言う。

> 「げに信ずる人々、ユダヤ教徒、キリスト教徒、並びにサービア人たち、（注61）そのいずれたるを問わず、アッラーを信じ、最後の審判の目を信じ、善行を積む人々は、主より必ず報奨を賜わらん。而して彼等には、恐ろしきこと悲しきこと起らざるべし。」(2:63) 。

同じ託宣が5:70で繰り返されている。全ての宗教の信者の基本的結束が聖なるコーランで力強く強調され、テロによる不和や分裂が生じることがあろうと無かろうと、イスラム教に入り込む余地は全くない。

国際関係の分野では、宗教及び宗教間の関係が重要な位置を占めている。残念なことに、人間関係のこの側面にはあまり注意が払われない。宗教は各個人にとって私的な問題であり、従って生活の政治的、社会的側面とは直接の関係がないと思われている。この仮定は正当化されない。イスラム教は平等主義的な宗教であり、単なる個人的な信仰ではなく、価値観や行動の包括的な掟である。イスラム教は人間関係における重要な要因であり、今後もそうあ

り続けるだろう。イスラム教は、目標を達成するために宗教的、政治的指導者に必要とされ続けるのみならず、団結と調和を促進するためにも重要である。

平和時であろうと戦争時であろうと、テロ行為はイスラム教では非難される。それだけでなく、テロは明らかに全人類の主である神への服従を通して、平和を象徴するイスラム教の教えに相いれないことも述べて、私は結論を下す。

神の律法への服従によってのみ、私たちはテロの無い安全な世界という理想を達成することができるのである。

イスラムについてのご質問は、お気軽にお寄せください。
一般の方、マスメディア、イスラム研究者、どんな方でも歓迎です。

【お問い合わせ先】

日本アハマディア・ムスリム協会

〒465-0058 名古屋市名東区貴船2ー1602
TEL:052-703-1868 FAX:052-703-9379
http://www.ahmadiyyat.jp
Email:deskjapanese@gmail.com
info@ahmadiyyat.jp

定価250円(税込)